平成２６年第１回定例会　施政方針

平成２６年第１回印西市議会定例会の開催に際し、施政方針を申し上げます。

私が、市民の皆さまからの負託を受け、印西市長として市政の舵をとり、早や１年半の月日が経ちました。

市長就任時より「市民からいただく貴重な税金を無駄使いせず、子育て、福祉、教育といった市民のための施策に還元する」という議員時代から変わらぬ姿勢で行動し、市民の声にしっかりと耳を傾け、とことん市民目線で各施策に取り組んでまいりました。

そして、この 1 年半で、喫緊の課題への対策や公約実現に向けた具体化への取り組みを進め、私が思い描いているまちづくりの方向性を決め、前進させてまいりました。

中でも私の公約の第 1 番目に掲げた印西クリーンセンター次期中間処理施設の移転計画につきましては、印西地区環境整備事業組合内に用地検討委員会が設置され具体的な検討が行われており、現在、用地の公募が実施されているところでございます。

また、二次救急医療の整備につきましては、印西総合病院が昨年１０月に二次救急病院として認定されたことに伴い、市内の医療体制の強化が図られ、市民の安全安心につながってきたところでございます。

その他、山積する諸課題につきましても、解決に向け全力で取り組んでまいります。

そこで、私の平成２６年度の市政運営に対する所信の一端をここに申し上げ、議員各位をはじめ、広く市民の皆さまのご理解とご賛同を賜りたいと存じます。

まず、国内の社会経済情勢に注目いたしますと、内閣府が昨年末に公表した月例経済報告では、「景気は、緩やかに回復しつつある。また、先行きについては、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が発現するなかで、家計所得や投資の増加傾向が続

き、景気回復の動きが確かなものとなることが期待される。ただし、消費税率引上げに伴う駆け込み需要及びその反動が見込まれる。」とされており、「期待」、「反動」といった不安定要素が存在する見通しとなっております。

印西市におきましても、歳入面では市民税の伸び悩みなどが懸念され、さらに地方交付税については、１市２村の合併に伴う普通交付税の特例措置分が、平成２７年度から段階的に縮減されることが確実であり、今後は、現状の歳入確保が極めて厳しい状況となることが見込まれております。歳出面では、高齢化や増大する福祉ニーズに伴う扶助費の増加、公共施設の維持管理及び改修費の増加が見込まれるとともに、普通建設事業費などが財政運営に重い負担となることが見込まれ、今後も厳しい財政状況は続くものと考えられます。

私は、このような状況を冷静に注視しつつ、事務事業の効率的な執行とメリハリのある行財政運営を行い、将来のまちづくりを見据えながら市政に取り組む決意でございます。

それでは、新年度の市政運営の基本的姿勢について申し上げます。

現在、本市におきましては、平成３２年度を目途に将来都市像を「ひと　まち　自然　笑顔が輝く　いんざい」と定め、将来都市像の実現のために、６つの分野の基本目標を掲げ、計画的なまちづくりを進めております。

平成２６年度は、第１次基本計画の３年目にあたり、仕上げの時期に入りますので、計画との整合性を基本として、各事業の実施効果を十分に検証し、効率的な事業運営に努めてまいります。

そこでまず、来年度より一部組織体制の見直しを行い、新たな行政需要及び行政課題に対応してまいります。

具体的には、健康福祉部内に「障がい福祉課」を新設し、障害者総合支援法等による障害福祉サービスの推進に努めてまいります。

また、総務部行政管理課内に「番号制度準備室」を新設し、社会保障・税番号制度の導入及び利用開始に向けた制度構築や各部門との連携対応を行ってまいります。

さらに、厳しい財政状況や定員管理の適正化を踏まえ、効率的かつ機能的な組織体制とするため、印旛及び本埜支所の支所組織を３課４班体制から１課２班体制とする見直しも併せて行ってまいります。

また、今回の予算編成にあたりましては、必要性や有効性を厳しく検証するとともに、これまで以上に創意工夫を凝らし、無駄のない実効性の高い施策を構築していけるよう努め、市民サービスの向上に資することを念頭に入れ、予算を編成いたしました。

各会計及び水道事業会計を合わせた平成２６年度当初予算の規模は、対前年度比８．５％増の５０５億７，９６８万４千円でございます。

なお、平成２６年度予算の詳細につきましては、予算審議の際にご説明申し上げますので、ご了承願います。

それでは、平成２６年度の主要事業の概要につきまして、基本構想の６つの分野の基本目標に沿って申し上げます。

はじめに、基本目標１「恵まれた自然の中でやすらぎを持って生活できるまちをつくる」に関連するものについて申し上げます。

平成２６年度は、市民・事業者・行政が連携、協働し、地域で里山を守り育む仕組みづくりや廃棄物減量等推進員制度の構築による、ごみの減量化・資源化など、印西市環境基本計画に掲げた環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進してまいります。

また、太陽光発電システムや太陽熱利用温水器、家庭用燃料電池システムなどの普及を進め、環境負荷の低減による循環型社会の構築を目指すとともに、合併処理浄化槽の普及による公共用水域の水質汚濁防止や不法投棄の防止に向けた環境づくりなど、

環境保全施策を引き続き推し進めてまいります。

そして、千葉ニュータウン２１住区の公園整備事業につきましても、環境に配慮した整備を進め、自然豊かな魅力あるまちづくりを進めてまいります。

防災対策としましては、外国人向けの総合防災ブック、ハザードマップを作成し、外国人も含めた防災意識の啓発を図っていくほか、災害時における生活必需品の安定供給、飲料水等の確保のため、災害応急資機材の備蓄の推進や指定避難所への防災井戸の整備を計画的に実施してまいります。

防犯対策につきましては、街頭防犯カメラ等の施設整備を推進するとともに、青色回転灯装着車による市内巡回、防犯啓発活動に力を注ぎ、安全で安心なまちづくりを推進してまいります。

次に、基本目標２「やさしさを持っていきいきと暮らせるまちをつくる」について申し上げます。

子育て支援に関することにつきましては、保育施設の適正な配置及び運営を進め、民間保育園の施設整備に対して補助を行うなど保育園の待機児童の解消を目指すとともに、家庭的保育や病児・病後児保育等の各種保育サービスの充実を図り、子育て家庭への支援を行ってまいります。

また、千葉ニュータウン２１住区及び印旛高校跡地への学童保育施設の整備を進めるとともに、西の原第２学童保育施設の整備及び小倉台学童保育施設の改修工事を行い、就労等により監護する方がいない家庭の放課後児童の健全育成を図ってまいります。

さらに、安心して子育てができる環境づくりとして、中学校３年生までの子ども医療費助成事業を引き続き実施してまいります。

また、障がい者の社会活動への参加や就労機会の拡大を図り、社会的、経済的自立を推進する障がい者就労サポートセンターを印旛高校の跡地活用として整備するため、用地取得を実施するとともに、２１住区に地域住民の文化活動、ボランティア活動、

コミュニティ活動を支え地域住民の相互交流を支援する地域交流施設を整備いたします。

さらに、高齢者が住み慣れた地域で、継続して生活できるよう介護予防事業を実施するとともに、がん検診事業、予防接種事業を引き続き実施し、正しい健康意識の啓発、検診受診の促進、感染症予防を図り、市民の皆さまが元気にいきいきと生活することができるよう努めてまいります。

次に、基本目標３「地域の持つ可能性を活かした魅力あるまちをつくる」について申し上げます。

農業従事者の高齢化や担い手不足が深刻化する中、持続的な農業労働力を確保するため、新たに農業を始める方を支援する新規就農促進事業を推し進めるとともに、消費者と生産者の交流の機会として産業まつりを開催し、基幹産業である農業の振興を図ってまいります。

そして、印西市地産地消推進計画により、地元での消費拡大を推進してまいります。

また、当市の地理的優位性を活かし、優良な企業の誘致を推進し、市の産業振興及び雇用促進を図るとともに、中小企業の経営基盤の安定強化を図るための中小企業資金融資事業、商工会と連携した地域商工業の活性化を図るための商工振興対策事業などを行い、地域の持つ魅力を活かしたまちづくりを推し進めてまいります。

次に、基本目標４「健やかな心と体を育み未来を拓くまちをつくる」について申し上げます。

印西の学校教育の特色をより一層打ち出しながら、子どもたちの健やかな成長を目指すため、きらり輝く印西の子供育成事業を引き続き実施してまいります。

また、各中学校区に１名ずつ外国語指導助手を配置し、国際理解教育を推進するとともに、児童、生徒の情報活用能力の育成等のための教材整備も引き続き進めてまいります。

教育施設面では、経年により老朽化した学校施設の耐久性を維持し、安全で快適な

学校生活を確保するための小中学校の施設整備改修事業、２１住区のまちびらきに伴う小学校等施設整備事業、安全で安心な給食の提供を図るため、学校給食センター整備基本計画に基づく、厨房機器の整備や（仮称）新学校給食センターの用地取得等を実施してまいります。

さらに、文化財保護調査事業として、市内に残る有形・無形文化財の保護・活用を図りながら、小林地区の道作古墳群につきましては、整備工事を進めてまいります。

スポーツ振興としましては、スポーツフェス、全国高等学校総合体育大会空手道競技会、クライミング・リード・ワールドカップ等、各種スポーツ・レクリエーション大会の開催により、スポーツに取り組む機会を広げるとともに、トップレベルの競技を観戦することによりスポーツに対する意識の高揚を図ってまいります。

次に、基本目標５「快適で暮らしやすい都市機能の充実した美しいまちをつくる」について申し上げます。

木下駅周辺地区におきましては、中心市街地活性化基本計画及び印旛高校跡地活用基本計画に基づき、また小林駅周辺地区におきましては、小林地区活性化計画に基づき、それぞれの駅圏の地域特性を活かした地域の活性化を進めているところでございます。

小林駅につきましては、駅利用者の利便性の向上を図るとともに、まちづくりの核となるよう自由通路及び駅舎の橋上化の整備を引き続き実施していくとともに、南口駅前広場を整備するための用地取得等を行ってまいります。

また、幹線道路網の充実を図るため、住宅市街地基盤整備事業として、印西牧の原駅圏と小林駅圏を結ぶ市道００－０３１号線の整備、道路新設改良事業として、市道００－０２６号線の延伸区間の整備、印旛高校跡地の道路整備、市道松崎吉田線の整備等を行うとともに、２１住区道路整備事業では、環境に配慮したグリーンネットワーク等の整備を進めてまいります。

その他、印旛中央地区土地区画整理事業の促進や、印旛高校跡地活用による木下地

区の公共下水道及び雨水排水整備工事、樽場池護岸整備に伴う吐口工事を進めてまいります。

なお、公共交通網整備促進事業として、市民の身近な交通手段である、ふれあいバスの利便性向上を図るため、現行４ルートにおける日曜祝日の実証運行及び新設２ルートの実証運行等を実施いたします。

また、北総線の運賃値下げにつきましては、北総線の運賃値下げに係る合意書に基づき、北総鉄道運賃値下げ支援補助金を交付するとともに、北総線運賃問題に対する次年度以降の対応につきまして、関係者間による協議を進め、運賃問題の解決に向け取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、基本目標６「市民と行政がともに歩み健全で自立したまちをつくる」について申し上げます。

市民の皆さまに的確な行政情報を提供し、市政の透明化や市政に対する関心度の向上を図るため、広報紙及びホームページの更なる内容充実に努めながら、積極的に情報発信を行ってまいります。

公共施設につきましては、既存施設の効率的な管理運営を図るため、市有建築物の基礎調査を実施し、公共施設改修計画指針を策定するとともに、情報基盤整備として、学童保育施設の情報ネットワークを整備し、施設間の連絡体制の強化を図ってまいります。

さらに、市民活動の推進及び活性化を図るため、市民活動支援事業、町内会等の設立や活動に対する支援、地区集会施設の整備・充実に係る建設費の補助なども行ってまいります。

以上５５事業にわたる平成２６年度予算の主要事業についての概要を申し上げました。将来都市像の実現に向け、これらの事業を重点的に推し進め、魅力あふれるまちづくりに取り組んでまいります。

結びに、これら主要事業の他にも、新住宅市街地開発事業完了後の千葉ニュータウン事業、クリーンセンターの更新事業などの重要な政策課題もございます。

これらの課題につきましても、皆さまのご意見を伺いながら、当市の将来を見据え、市政の舵取りを行ってまいります。

また、喫緊の課題として、指定廃棄物の一時保管問題を抱えております。

一時保管の期限も迫っている中、最終処分場の設置場所が未だに決定していない状況でございますので、課題解決に向け、今まで以上に関係機関へ強く働きかけを行ってまいります。

引き続き、市民目線をモットーに市政に臨んでまいりますので、議員各位並びに市民の皆さまにおかれましては、より一層の市政へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、施政方針といたします。